



ふ れ あ い

令和6年12月24日発行
第103号
PTA会長：橋元 直也
広報部長：原口 さつき

特集 I

おしえて！お悩み相談室（気になることについて、経験者からヒントをもらおう！）

違う（地元）小学校に通う弟に「何でいいには、鹿屋に行くの？」と聞かれるようになりました。兄弟児への説明、どんなふうに伝えましたか？



さあ、みんなで話題を共有しましょう！！

ステップ1

～きょうだいの“気持ち”をのぞいてみよう～

今回は、きょうだいの思いの一例として、Aさん（現在、社会人）の経験談をご紹介します。

「妹に障害があるとわかった時～小学生の頃～」

小学4年生の時。「障害」が何なのか、実感がわかなかった。妹のどこが障害者なのかわからなかった。だから、そのことを受け止められずに、外出するときに周りからどう見られているのだろうということばかり気にしていた。妹にどうしてあげればいいのか考えることもできず、妹が障害者だということを周りに見られたくない、知られたくないって思いながら過ごしていました。

「中学生の頃～」

中学生になって初めて妹のリハビリについて行きました。理学療法士の方の姿や妹と同じ立場の人を見て、障害を持っていることは変だという意識がなくなって、自分にもできることがあるんじゃないかと感じはじめました。そこから医療というものに興味を持ち始め、妹の障害について知りたい、何とかしたいという気持ちが出てきて医者を目指しました。でも、成績が思うようにいかず…。理学療法士でも妹の為に何かできるんじゃないかと思いました。

「現在」

元々は妹の為に理学療法士を目指しましたが、妹以外にも多くの方が当事者として障害と向き合っていることを感じます。理学療法士という目標に導いてくれた妹に、出会えて良かったと今、心から思います。いつか妹の障害について研究して何か形にすることが、私のこれからの目標です。

ステップ2

～感じ方はそれぞれ。いろいろな立場の方の話を聞いてみよう～

「株式会社L-はぴねす」所属、日本言語聴覚士協会理事、「子どもの発達支援を考えるSTの会」副代表であり御自身も“きょうだい”として育ってきた西野翔太さん（言語聴覚士、知覧町出身）。本校の職員研修でも御講話いただきました。御自身が経験されたことや仕事、その他の活動を通して語られています。

“きょうだい”は親の代わりになる必要もなく、障害のあるきょうだいのことを全て優先する必要もないこと、“きょうだい”自身が自立のために選択の機会や意思決定の権利があることを、周囲も理解することが“きょうだい”として生きていく糧になるはずです。（講演「きょうだいてなに？」 より一部引用）

“きょうだい”自身が時間を掛けてそれぞれのペースや感じ方で自分の「答え」を見付けていくものかもしれませんね。今回のように保護者間で話題を共有する中で、新しい気付きも得られそうです。

ということで・・・

これからも、語り合っていきましょう！！

学校に意見を伝える機会が増える

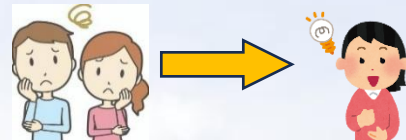
保護者が学校側に子供のためにこうしたほうがいいのかと思っても個人で意見を伝えるのは難しいです。

PTAがあることで学校側に意見を聞いてもらう場ができ、対応してもらいやすくなります。学校と保護者の双方のコミュニケーションもUPします。PTAがなくなれば意見を伝えにくくなります。



各地から集まっているからこそ

地域の学校ではなくていろいろな場所から通っている特別支援学校です。普段は住んでいる地域が異なるので日頃、顔を合わせる機会が少ないです。だからこそ顔の見える関係、困ったときに相談できる関係ができていると不安を減らすことができます。先輩保護者は同じような悩みを抱えて解決してきている方もいます。子育ての悩みや課題を保護者同士で話し合ったり、情報を手に入れたりできます。



子は親(大人)の背中を見て育つ

バザーなどの行事自体がPTAの目的ではありません。行事は、子供たちも大人も笑顔いっぱいの学校をつくるという目的のための手段の一つです。保護者と教職員、保護者同士、みんながつながりサポートしていくから子どもが育つのです。子供たちの学びの環境を良くし笑顔を守るために、PTAや保護者会の力が必要なのです。

「だれかがやるだろう...」の他人事ではなくて、小さな力でもつなげれば大きな力になるということです。

皆さん！子供は親の背中を見て育ちます。PTAや保護者会の仕事にプライド(誇り)をもって、仲間の輪を広げていきましょう。



安心して学校生活を送れるように

学校で必要な備品や資材など学校の限られた予算の中では準備が難しいものがあります。また、予算を確保するまでに時間が掛かることもあります。災害時の対策、備蓄など、それぞれの地域特性や子どもたちの状況では学校で必要な物も異なります。そんな時、子供たちの学校生活のために必要な物をPTAの予算から準備することもできます。子供たちが安全に学校生活を送れるように、保護者が学校に安心して通わせることができるのもPTAがあってこそです。子育ての悩みや課題を保護者同士で話し合ったり、情報を手に入れたりできます。



チームの力で守り支える

学校って先生と児童生徒だけで成り立っている？それは違います。保護者や家庭のサポートや協力が必要です。それもチームで。わが子の安全を願い、わが子を守るのは当然ですが、わが子だけを守ればいいのでしょうか？

そうしたくてもできない家庭もありますよね。

どの子も笑顔で元気に通う楽しい学校にするにはチームでサポートしたほうが絶対に上手くいくのではないのでしょうか。たとえば通学路の安全指導もその一つ。親が自分の子どもをいつも見守るのは大変だけど、PTAで分担し学校全体の子供を守っているのです。また、PTAが地域と合同で行う見回りパトロールも、実は犯罪や事故の抑止力になっていることも多いのです。



PTAがあるから他校との情報交換や連携ができる

他の特別支援学校PTAや地域の学校PTAとの情報交換や繋がりができます。市P連協議会やPTAフェスティバルなどで地域の状況なども情報を得ることができます。市P連として行政に要望を出すことで要望を聞いてもらいやすくなります。

保護者と学校と地域が連携し、子供の教育や安全を守るという目的があります

自助・共助・公助

子育てもまずは自分であれこれ試行錯誤したり調べてみることは大事なことです(自助)

しかし、やっぱり上手くいかないことはあるものです。そんなときにPTAで保護者とコミュニケーションをとることで悩みや困りごとが解決したり、少し楽になったりすることがあります。先輩方に教えてもらったり、話を聞いてもらって、今度は後輩保護者に教えてあげたり話を聞いてあげたりすることができます(共助)

地域社会は繋がりで成り立っています。自分だけ良ければ良いではないですよ！

PTAという組織の力で学校に意見を伝えたり、要望をすることもできます。また、必要であればPTAから市や県など行政に要望をすることもできます。行政からのサポートをうけやすくなります。(公助)



主役は子供たち！子供たちのために大人たちが繋がって支えていくのがPTA！